第十五号　平成十五年三月二十七日（木）発行

「実るほど、頭（こうべ）を垂れる稲穂かな」

昨年十月下旬、さわやかな秋晴れのもと、五年生の子どもたちが、大切に育てきた稲が実り、黄金色になった田んぼで、稲刈りが行われました。

田んぼは、学区の小林茂さんにお借りしました。広さは、およそ二五〇㎡。子どもたちは、おじいさんやおばさんに聞きながら、慣れない鎌を使って一生懸命稲刈りをしました。

五月、塩水選から始まり、田起こし、代かき、そして、田植えを行い、米づくりの方法について何度も話し合いを行いました。

特に、子どもたちは、「安全でおいしい米づくり」を目指し、無農薬農法に挑戦することになりました。図書館の本やインターネットなどで、農法について調べました。その中で、子どもたちは、ドジョウ農法を見つけました。ドジョウは、田んぼの土をかきまぜてくれるので、雑草が生えにくいとのことでした。

また、山水苑の柵木さんにもお話を聞き、ＥＭ菌は生き物の活性化にもよいということで、自分たちもＥＭ活性液を作り、田んぼにまくことにしました。

さらに、なのはな学習（本校の「総合的な学習」の名称）で、一昨年から交流している地域のおじいさんやおばあさんにもお話を聞くことにしました。

お話を聞いていくと、中之郷の山本よし映さんが電子水を作ってみえることが分かりました。電子水は、「魔法の水」と呼ばれ、農作物の成長にはとてもよく、おいしい作物ができるということでした。

このことから、「ドジョウ＋ＥＭ＋電子水」という自分たちの無農薬農法が誕生しました。しかし、絶対に忘れてはならないことは、人間の手と愛情です。

今年三月四日、お世話になった方々をお招きして、「米米パーティ」を開きました。これまでの米づくりの苦労を劇にし、熱々のお米に豚汁で、会を盛り上げることができました。苦労してつくったお米は、やはり一味違いますね。

— 楽しい「米米パーティ」 —